

ワークショップ
小中学校における哲学教育と教員養成

小中学校での哲学対話教育の成果

報告者：河野哲也（立教大学）
土屋陽介（茨城大学）
村瀬智之（千葉大学）

小中学校における哲学教育と教員養成

小中学校での哲学対話教育の成果

目次

- 子どもの哲学をめぐる2つの問い
- 子どもの哲学とは、どんな「哲学」なのか？
- 子どもの哲学の授業は、どのように行われるのか？
- 子どもたちの感想
- 結語



日本の小中学校での子どもの哲学の授業

- 子どもの哲学（Philosophy for / with Children）と呼ばれる対話型の哲学の授業が、世界各地の小・中・高校で行われているのは、ここまでの提題で示されたとおりである。
- しかし、それを日本の小中学校で実際に行ったら、いったいどのような授業になるのだろうか、ということが、おそらく多くの方の最大の関心事であろう。



子どもの哲学をめぐる2つの問い

● 本ワークショップの予稿より

「小学生に哲学なんて!？」と思うのは当然だ。人生経験や知識に乏しく、言葉も未発達の子どもの、哲学ができるとは信じられないだろう。しかし、実は世界ではすでに始まり、成果を上げつつあるのだ。それはどんな哲学なのか。どんな風にやるのか。



子どもの哲学をめぐる2つの問い

- 以上の予稿の文言には、2つの問いが含まれているように思われる。

→ 「人生経験や知識の乏しく、言葉も未発達の子ども」が行う「哲学」とは、

〔問1〕 「どんな哲学なのか」？

〔問2〕 「どんな風にやるのか」？

※ 以上の2つの問いに答えながら、私たちが小中学校で実践した子どもの哲学の授業の様子を報告することを、本提題発表の目的としたい。



[問 1]

子どもの哲学とは、
どんな「哲学」なのか？



子どもの哲学とは、どんな「哲学」なのか？

- 一般に、小中学生を主な対象とした子どもの哲学の授業では、「哲学者の名前や思想内容を学ぶこと」や「既存の哲学理論の内容を理解すること」などは、主要な目的とはされていない。



- 子どもの哲学の授業で学ぶ中身
 - 哲学的に思考／対話するための方法および構え。
 - ＝ 日々の生活の中で直面する答えの出ない問題を、立ち止まってより一歩深めて考えるための技術や態度。
 - ＝ 対話を通して問題を共有し、一つの問題をみんなで共同で探求することを通して、思考を弁証法的に深めていくための技術や態度。

IAPCのウェブサイトより

- IAPC (Institute for the Advancement of Philosophy for Children) のウェブサイトには、子どもの哲学の授業における達成度評価のための指針として、以下のチェック項目があげられている。(一部抜粋・改変)

- 問いを論じることから議論を始められたか？
- これまで理解していなかった問いや概念を理解できるようになったか？
- 自分たちの意見の理由を述べあったか？
- お互いの発言をよく聞いたか？
- 論点を外さずに議論できたか？
- お互いの考えをもとにして議論を進めることができたか。
- 相手を気遣いながら、お互いの議論の誤りを指摘しあうことができたか。
- 知っていると思っていたことについて、より懐疑的になれたか。
- お互いに信頼しあえたか。

※ 以上の項目は、哲学的に思考／対話するための方法・構えが具体的にどのようなものであるかについて、示唆を与えてくれている。

私たちが実践した授業の目標

- 私たちが小中学校で実践してきた子どもの哲学の授業では、主として以下のような姿勢／構えを子どもたちに身につけさせることを目標として、授業を設計してきた。
 - リラックスした雰囲気の中で、ふだんはあまり考えないような問いについて、じっくり・ゆったりと「考える」という体験をする。
 - 答えのない問いを前に「わからない」「考え込む」という体験をして、すぐに答えが見つからない問いに対しても、粘り強く考える（問いにしがみつく）ことができるようにする。
 - 日々の生活の中に疑問を見出し、それを自分自身の言葉で問いの形にできるようにする。
 - 自分の意見を主張しあうのではなく、「問いあう」ことを中心とした対話の空間を作り出す。

私たちが実践した授業の目標

- みんなで協力しあい、お互いに触発しあいながら、一つの問いを探究できるようにする。
- 言葉（ロゴス）を信頼し、お互いに理由を示しあいながら、言葉を尽くして対話できるようにする。
- 他の人の意見を踏まえて（他の人の意見と関連させて）、自分の考えを発展させたり修正したりできるようにする。
- 自分の私的な考えを、公的な場面で公的な意見として発言できるようにする。
- 他の人の発言をよく聞き、どんな意見が出てきてもきちんと受け止めて探究することで、お互いに信頼しあい、自分が本当に考えていることを率直に発言できるような環境を作り上げる。
→ 「安全な共同体（Safe Community）」の実現

※ 以上のような目標の達成という観点から、哲学対話教育の意義と効果をどのように測定・評価すればよいか、という課題についても、現在研究チームとして取り組みを開始している。

→ 応用哲学会ワークショップ「対話型哲学教育の効果測定と評価」

[問2]

子どもの哲学の授業は、
どのように行われるのか？



海外で実践されている子どもの哲学の授業

- 海外で実践されている子どもの哲学の授業は、最も標準的なパターンとしては、以下の手順に従って行われる。

- ステップ1：教室に椅子でサークルを作る
- ステップ2：教材（マテリアル／探求の素材）を共有する
 - リップマンが開発した教材（哲学小説）や、そのほかの物語、絵本、マンガ、映画などを読み（鑑賞し）、感想や思いついたアイデア、疑問に思ったことなどをみんなで自由に述べあう。教員は、子どもたちから出てきたアイデアや疑問などを黒板に書いていく。
- ステップ3：みんなで探求する「問い」を作る
 - 黒板を見たり、教員の助けを借りたりしながら、教材の中からみんなで対話したい／探求したい「問い」を作る。
- ステップ4：「問い」をみんなで探究する
 - 教員がファシリテーター（進行役）を務めて、みんなで作った「問い」について、みんなで話しあいながら考えを哲学的に深めていく。

私たちが実践した授業の手順

- 私たちのこれまでの小中学校で実践では、だいたい以下の3ステップの手順に従って授業を行ってきた。
 - ステップ1：話しあいの問いを作る
 - ステップ2：問いを問いあう…質問ゲーム
 - ステップ3：みんなで話しあいながら考える



実施クラスの基礎データ

○ 学校・学年・回数

- 立教小学校5年生・・・私立男子校
2011年10月14日・17日・18日（3回）
- 玉川小学校4年生・・・私立共学校（12ヶ年一貫教育）
2011年11月14日・21日・28日（3回）
- ◆ 開智中学校1年生・・・私立共学校
2012年4月より年間14回授業

実施クラスの基礎データ

● 実施クラスとクラス規模

- 立教小学校：3クラス（A組・B組・C組）
1クラスの人数・・・40人
- 玉川小学校：1クラス（松組）
1クラスの人数・・・30人（男子13・女子17）
- ◆ 開智中学校：5クラス（F組・G組・H組・I組・J組）
1クラスの人数・・・30人

ステップ1：話しあいの問いを作る

- 日々の生活の中に疑問を見出し、それを自分自身の力で（哲学的な共同探求が可能な）「問いの形」にするために、クラス全員で話しあいながら「話しあいの問い」を作る。
 - ◆ 授業の冒頭で、子どもの哲学の授業風景を記録したドキュメンタリー映画『ちいさな哲学者たち』を5分間程度上映する。
 - ◆ 映画と同じような話しあいの授業を行うことを告げた上で、「みんなで話しあいながら考えてみたいテーマ」について発言を促す。発言は黒板に整理しながら記録する。
 - ◆ ある程度テーマが出てきたら、**テーマの間の連関**を考察する。
 - ◆ テーマの間の連関について考察できたら、出てきたテーマを使って「みんなで話しあうための問い」を決めていく。
→ 最終的には多数決も使って問いを決めていくが、できるだけ「**包括的な質問**」「**考えやすい質問**」を考えるように促す。



※ 開智中学校での実践では、以上とは異なるやり方で授業を行った。

不幸

未来

偶然

発明

幸せ

友達

権力

変

運命

大人

貧乏

大奇せき

人間

命

本当の幸せ
条件によって決まる。

発明に勉強が必要。

いって、いなくても
いっしょに
いいたい
完全にはやさない
いかなる状況でもやれるように愛。

身近な人(血のつながり)
(家族)

かえり映らない。
かえり映る。

大人は
人間。

いさか同じ。

幸せ

友達

勉強

便利

いつでも
やさしくして
友達には
いらない
仲の良い
関係
しやとくはない

いっしょに
いたい

いつでも、いなくても
完全にやさしくする
いかな状況でもやさしくするたし愛

身近な人(血のつながり)
(家族)

やさしくする

貧乏

性

大人

自分からやるか! 知られたいか!

本当の幸せ
条件によって決まる

大人は
人間

生き
間のこと

たどりつてくるか!

話し合っても決まらない

話し合いを
から考へる
という
テーマ

日常の
疑問
疑問 → 答え

勉強

友達

便利

町で
やさしくして
友達とは
いい
仲のいい
関係
そんなとくじゃない

いつでも
いっしょに
いたい
完全
どんな状況

やさしくする

貧乏

人生

生きていく

自分でかえらぬか！

木

本当の幸せは何?

人生 運命 友達

・人生はどーやってたーかえられるか

・人生でどーやって本当の幸せに近づくか

・人生の終わりをどうむかえるか

・奇せき、ぐうぜんは本当に奇せきやぐうぜん?

・人生の中でどれだけの人と出会うか

・人生で何をやるべきか

・運命はどのように定められているか

・運命はどーやってたーかえられるか

・本当の幸せは何?

人生、運命、友達

☆ 本当の幸せは何か? そして、
どうやって人生の中でそれに
近づいていくか?

・人生はどうかたらしめられるか

・人生で、どうか本当の幸せに近づけるか

・人生の終わりはどうなるか

・奇世か、ぐうぜんは本当に奇世やぐうぜんか

・人生の中でどれだけの人は会うか

・人生で何をやるべきか

・運命はどのように定められているか

・運命はどうかたらしめられるか



実現しないかも。
 夢だけじゃ未来ではない
 未来、てだけれど
 つくる？
 夢はこうなりたい
 夢は思い
 いうなるか
 分からない
 いのち
 夢
 必要
 努力
 家族
 勇気
 友だち
 死
 生命に
 かんがえている
 仲良くする
 がんばろう
 生きる
 勉強
 信
 動物
 家族になる
 努力したら何でもできる？
 死ぬってなんだろう？
 家族、てなあに？

鉛筆を使いましょう

全部生きるなか？

夢だけじゃ未来ではないかも
夢だけじゃ未来ではない

未来、てだけれか
つくる？

ボーッとしてても
未来はくる？

努力しない
と実現でき
ない。

未来は
みんなにある。
(夢はそうではない)

未来時間

友だち

生きる
がんばろう
幸せ

運命

夢がないと未来が
できない

死

生命に
かんがえている

仲良

がんばろう

努力すると
変わる？

未来のとき

デカイ未来と小さい未来
みんなの未来 個人の未来

努力

せいふが決める

夢は自分が決める

努力や勇気が
運命をかえる？

未来はかえられる？

生きる

友だちってがんばっている？
死、てどうしてあるんだ

みんなと
話し合っ
てみる。

クラスごとに決まった「話しあいの問い」

- 立教小学校・A組

死とは何か？

- 立教小学校・B組

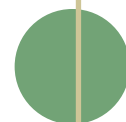
大震災のように予測できない大事件に対して、対策をどうすればいいのか？

- 立教小学校・C組

本当の幸せって何か？そして、どうやって人生の中でそれに近づいていくか？

- 玉川小学校・松組

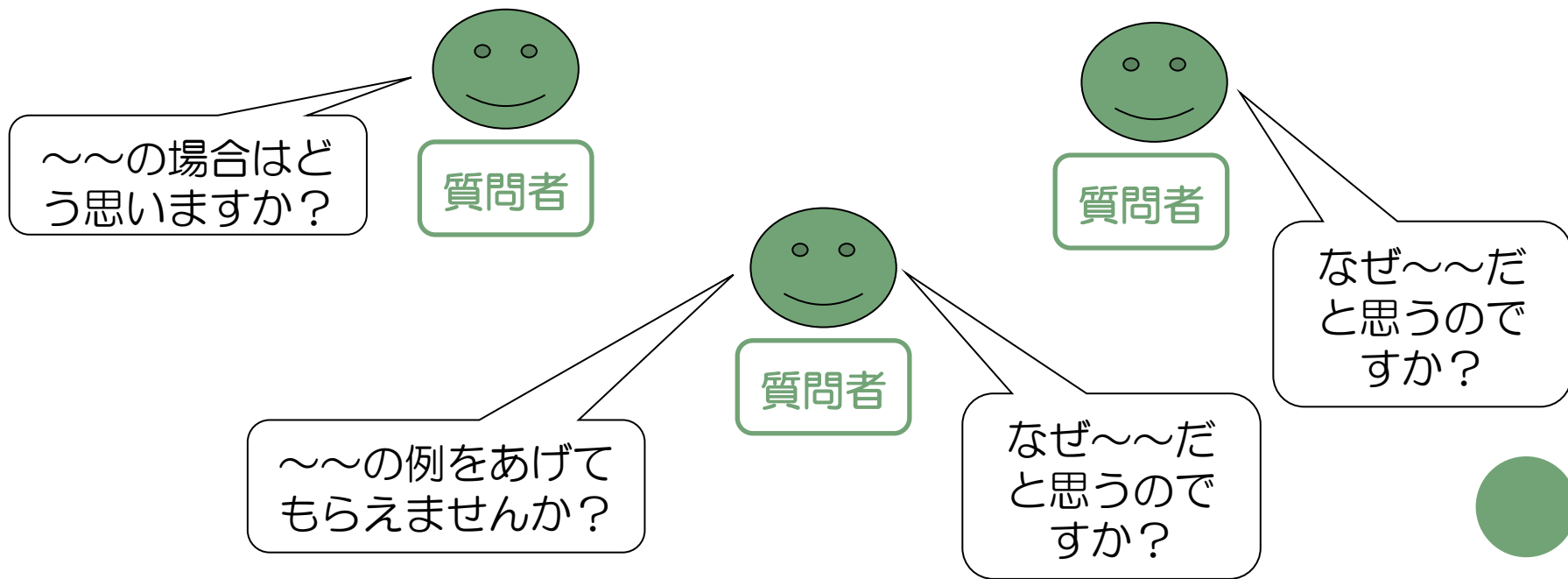
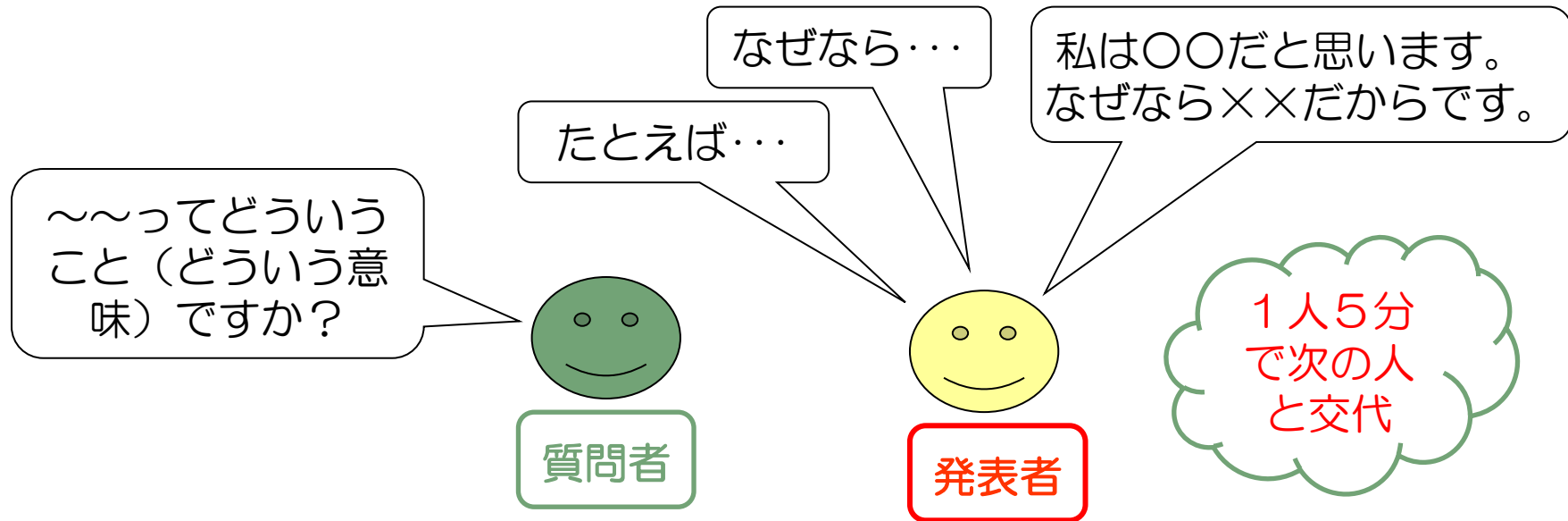
未来ってだれがつくる？



ステップ2：問いを問いあう

- 自分の意見を主張しあう「議論」ではなく、「問いあう」ことを通して問題を共同で探求する「哲学対話」を体験するために、小グループに分かれて「質問ゲーム」を行う。
 - ◆ 4～5人の小グループに分かれて、ステップ1で決めた「話しあいの問い」について「質問ゲーム」を行う。
 - ◆ 「質問ゲーム」のポイント
 - 全員が必ず質問し、質問される体験をすることができる。
 - 教員の圧力や、みんなの前で発言する圧力を気にせずに、リラックスした雰囲気の中で自由に意見交換を行うことができる。
 - 哲学における質問とは、相手を詰問・尋問するためのもの（＝ディベート）ではなく、相手の考えをよく理解して自分の考えを深めるためのもの（＝哲学対話）である、ということを体験的に学び取ることができる。





話し合いのルール

◎ 質問し合おう！

よくわからなかったり、疑問に思ったりしたことは、何でも質問しよう。

「質問」→「答える」→「質問」→「答える」……

◎ 質問にべんりな3つの言葉

「〇〇ってどういうこと？」（意味）

「なんで？」（理由）

「たとえば？」（例）

◎ でもね……

- ① 質問の意味がわからなかったら、説明してもらおう。
- ② よく考えてもわからないときには、正直に「わからない」と答えよう。
- ③ 相手と意見がちがったら、“反論”してみよう。
“反論”するときには、必ず「理由」をはっきり言おう。
- ④ グループの中で結論を出す必要はないよ。

話し合いの進め方

※ 発表する順番は、**出席番号順**にします！

- (1) 「話しあいのメモ」を見ながら、自分の意見を**発表**します。



- (2) 聞いていた人は、よくわからなかったところを**質問**します。

発表した人は、質問に答えます。



- (3) 質問が終わったら、聞いていた人は、いまの意見に**賛成**か**反対**かを言います。

なぜ**賛成**か・なぜ**反対**かの「理由」も言って、全員で自由に話し合いましょう。



- (4) **5分**たったら、次の人にうつります。

ステップ3：みんなで話し合いながら考える

- クラスメイトのいろいろな意見を聞いて、お互いに思考を触発しあいながら、みんなで言葉を尽くして一つの問いを探究するために、クラス全体で哲学対話を行う。
 - ◆ 教室に椅子でサークルを作る。
 - ◆ ステップ2の「質問ゲーム」で、グループごとに行った話し合いの内容をクラス全体でシェアする。
 - ◆ シェアが終わったら、ステップ1で決めた「話し合いの問い」に立ち戻り、シェアした内容を踏まえながら、クラス全体で話しあって「問い」を共同で探究する。



ステップ3：みんなで話し合いながら考える

- ◆ クラス全体での哲学対話（探求の共同体: Community of Inquiry）における教員の役割。
 - 進行役・司会役（ファシリテーター）。
 - 子どもの発言をよく聞いて、その発言との連関を意識させながら、次の発言を促す。
 - 子どもの発言の中にわからないことがあったら、率先してどんどん質問する。
 - ・ 子ども自身が自分の思考を明晰化することを助ける。
 - ・ 問う姿勢を示すことで、子ども同士で問いあうことを促す。
 - 議論がテーマから外れすぎないように見守る。
 - 沈黙に耐えて、子ども自身から発言が出てくるのを待つ。
 - 子ども自身が思考し発言することを重視するため、教員による議論の整理は必要最小限に留める。
 - その代わりに、教員は、議論の哲学的深まりの鍵となる子どもの発言に注目し、その発言との関連において質問や発言を促すことによって、問いを哲学的に深めていく。

対話事例（１）

玉川小学校・４年松組の３時間目

- 実際にどのような対話が行われたのかについて、玉川小学校の４年松組での対話を例にとって紹介する。
 - 話しあいの問い・・・『未来ってだれがつくる？』
 - 「質問ゲーム」を通して、“**そもそも「未来」って何なのか？**”という問いが子どもたち自身から出てきた。



対話事例（１）

玉川小学校・４年松組の３時間目

〔１〕 「**みんなにきょうつうする未来**」と「**自分の未来**」がある。

（Ａ） みんなにきょうつうする未来・・・みんなできめる
自分の未来・・・自分できめる

↓ ↑

（Ｂ） みんなにきょうつうする未来・・・「天才」や「せんきょ
でえらばれた人」が
つくる

（Ｃ） みんなにきょうつうする未来・・・「科学者」がつくる

（Ｄ） 自分の未来・・・「親」がつくる

〔２〕 「**ゆめのある未来**」と「**ふつうの未来**」がある。

（Ｅ） ゆめのある未来・・・自分がつくる
ふつうの未来・・・だれでもない

↓ ↑

（Ｆ） 未来はだれもつukれない

対話事例（１）

玉川小学校・４年松組の３時間目

- 「質問ゲーム」を通して出てきた以上の論点をシェアした上で、「未来ってだれがつくる？」という当初の問いに戻り、クラス全体で話し合って考えた。
 - 議論は次第に、
 - 未来には「変えられる未来」と「変えられない未来」の二種類があるのか？
 - 運命はあるのか？
- といった問いの探求へと移っていった。



鉛筆を
使いましょう

全部生きるなか？

実現しないかも。
夢だけで未来ではない

未来、ただそれだけ
つくる？

④
ボーッといても
未来はくる？

③
努力しないと
実現できない

未来は
みんなにある。
(夢はそうではない)

未来 大人時間

自分の未来
身近な人と相談
して決める。

共通
③と④
①と②

生きる
かんばう
幸せ

★ 決まっている？
運命

結果

★ 夢がないと未来が
できない

ボーッといても
くる未来

変えられる？

みんなの未来

せいふ
私たち
えらばれた人

変えられない：生死

運命の未来

みんな
相談

変えられる未来

努力

①
みんなの未来

②
自分の未来

自分への視

せいふが決める

夢は自分が決める

力や勇気で
運命をかえる？

未来はかえられる？

みんなが
話し合ってる。

未来、てだれが
つくる?

大人
時間

自分の未来

身近な人と相談
して決める。

でも
未来

えらめる?

みんなの未来

せいふ
私たち
えらばれた人

国民が決めた

運命の中に
変えられる未来
がある?

未来と運命は
ちがう

夢は必ず幸せか?
いいち、てなあに?
(生きるちがう?)
努力したら何でもできる?

分々で観

19. は信らしている。動物に信らいはあるのか?

未来、てだれが
つくる? 死ぬ、てなんだろう?
どうして生まれるの?

話し合いのルール

◎ 質問し合おう!
よくわからなかったり、疑問に思ったりしたことは、何でも質問しよう。
「答える」.....

立教小学校での対話

○ A組：死とは何か？

「死はみんな不幸か？」というサブテーマを中心にして、死が不幸になる場合と幸福になる場合を検討した。「死は幸せでも不幸でもない」という意見についても検討した。

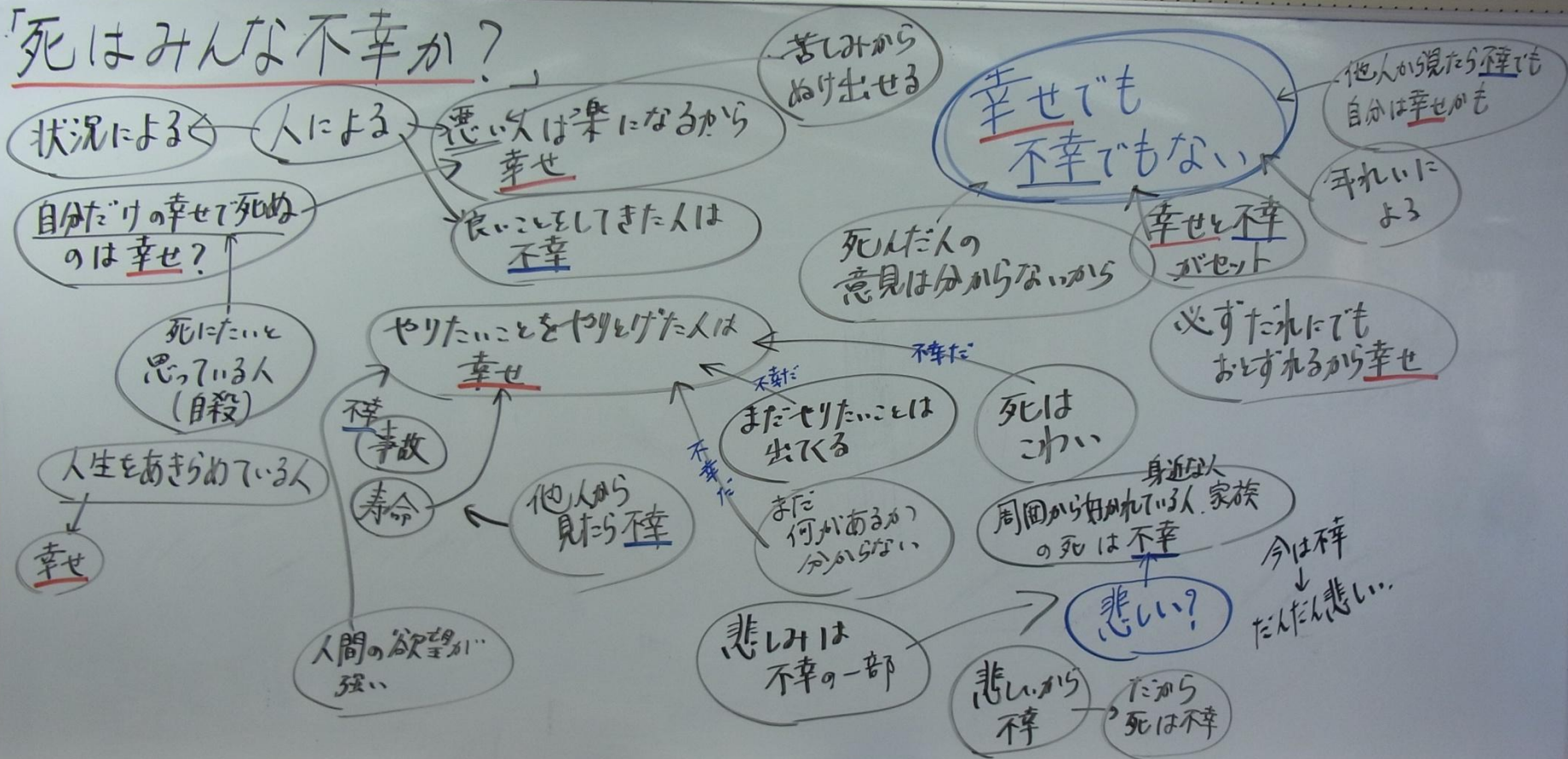
○ B組：大震災のように予測できない大事件に対して、対策をどうすればいいのか？

「防波堤を作る」「避難訓練を行う」「未来の科学者を育てる」「何もしない（他のことにお金をかける）」という4つの意見について、それぞれのメリットとデメリットを検討した。

○ C組：本当の幸せって何か？そして、どうやって人生の中でそれに近づいていくか？

「生きているだけで幸せだ」という意見と、「本当の幸せとは、個人個人が自分の思いをつらぬいていくことだ」という意見を軸に、それぞれの意見の根拠の妥当性を検討した。「思いを貫けなかった人は不幸なのか？」「ボーッと生きていても幸せなのか？」などの論点が出た。

「死はみんな不幸か？」



① 防波てい

X 防波ていを毎日見て
すこしたくない。

X 防波ていにも限界がある。

・防波ていで時間をかせく

X お金がかかる。

② 訓練する

・防波ていを作っても
ひなんできないとダメ

X お年よりがひなんできない。

・ひなんできるようなものを作る
(エレベータ)

・車いすでのひなん訓練をすればいい

・若い人が助ける訓練をする

・地しんで止まるかも。
速いと、お年よりは乗れない。
ゆっくりだとにづらない。

・やらないよりはいい。

X 参加がめんどう。

③ 未来の科学者を育てる

・教える人がいるか

X 育てている間に大しん災が
くるかも。

しばらくは
ないから準備
できる

④ 他にお金をつける

・どうせ人は死んでしまう

→ 間に合わないかも (意味がない) ①②③も
時間があまる

・もっと他のことにお金をつける。

→ 国の借金を返す

人を見守ることになるから良くない。

・予測できないから仕方ない。

・原宿なにお金をつけてしまう。

→ お年よりのために高台に家をたてる。

→ っと他のこと。

住民が
近いひなん所を
調べておく

ひなん所も
流される。

① 生きていることだけで幸せ

② 本当の幸せとは、個人が自分の思いをつらぬくこと

生きているのが
いやな人もいる

病気の人は幸せ?

生きていることが
時間のムダに
なってしまう。

自殺しようとしている人でも
幸せは見つけられる。

命があるからできること。

世界全員に
当てはまるべき

生きているから
思いをつらぬける

ボーッと生きている
幸せ?

今が幸せ

まずしくても
「生きる」ことが目的

個人でちがうもの

夢に向かう努力の中で
本当の幸せが見つかる

人生が終わるまでに
見つける

生きていることに
目的がある

見つけるためにも
生きる

死んでしまったら
不幸なのか?

つらくなかったら
不幸?

死んだら
思いをつらぬけない?

はたしてのぜん、
戦争、自分から
戦いに行く人

対話事例（２）

開智中学校・１年生の３時間目

- 開智中学校では、2012年度の１年間を通して哲学対話の授業を行うため、最初の３回は「話しあうとは何か？」という問いについて、話しあって考えた。
 - 〔１〕 「話しやすいとき・話しにくいとき」をテーマに「質問ゲーム」を行う。
 - 〔２〕 「質問ゲーム」で話しあった内容をクラス全体でシェアする。
 - わからない点があったら、どんどん質問する。
 - 〔３〕 シェアした内容を踏まえて、クラス全体で話しあい、「話しあいのルール」を決める。
 - ※ ルールを決めること自体が目的ではない。あくまでも「話しあうとは何か？」という問いをみんなで考えていくことが目的。



子どもたちの感想

- 子どもの哲学の授業を体験した子どもたちからは、肯定的な感想が数多く寄せられた。

➤ 配付資料

- 4・・・みんなの意見を尊重してよく聞く。
みんなで一つのことを考えると、思ってもいなかった意見が聞けて、ためになった。
反論されても嫌じゃない。
- 8・・・質問・答えを繰り返して、勝ち負け関係なく話しあうことが大切。
- 9・・・それぞれの考え方から、また別の考え方が生まれる。
その繰り返して答えが見つからないのが哲学。
- 12・・・めんどくさかったけど、楽しかった（！）

結語

- 「子どもの哲学とはどんな哲学であり、どのようにして行うのか？」という、本発表の問いに対しては、私たちは以上の実践の観点から、次のように答える。
 - 子どもの哲学とは、哲学者の思想や理論を知識として学ぶためのものではなく、**哲学的に思考／対話するための方法・構えを学ぶためのもの**である。
 - そして、それを、ここまで見てきたような「**哲学対話**」の手法を通して**体験的に学ぶ**のが、子どもの哲学の授業である。